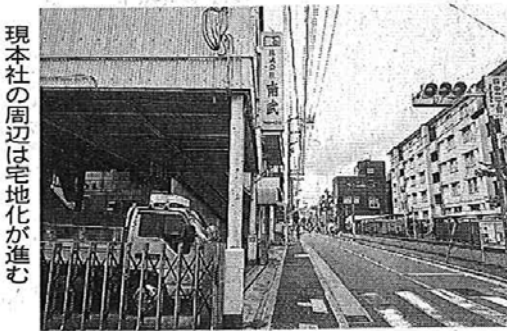




国内をマザー工場に位置づける  
(東京都大田区の本社工場)



現本社の周辺は宅地化が進む

## 周辺宅地化で操業難しく

# 南武、横浜に本社工場移転

## 油圧シリンダー生産 効率3割向上

油圧シリンダーを手掛ける南武(東京・大田)は、横浜市内に本社工場を移転する。周辺の宅地化で操業が難しくなり、移転後も通勤しやすい横浜の工業団地で、生産効率を3割高める。同時期に中国に工場を新設。横浜の工場は海外の工場に新たな技術や製造ノウハウを提供する「マザー工場」の役割を持たせ、海外は量産拠点として市場を開拓する。

## 中国には量産拠点

横浜市金沢区の工業団地にある延べ床面積2200平方メートルの中古工場を取得、2015年5月をメドに移働させる。投資額は約6億5000万円。現在の本社工場は増築を繰り返して使い勝手が悪くなっている。新本社工場はスムーズな動線を確保でき、新たに製造ロボットも導入することで、生産効率を3割高める。

羽田空港に近い現工場は町工場が並ぶ。30年以上操業しているが、周辺の宅地化が進み「羽田空港関係者のベッドタウンになりつつある」(野村伯英社長)という。工場拡充や夜間操業が難しくなり、トラックなどの出入りも不便になってきた。従業員の通勤や出張

時の羽田空港へのアクセスを考え、横浜市金沢区の工業団地を移転先に選んだ。同社は自動車やアルミダイカスト向け金型用の油圧シリンダーで国内で高いシェアを持つ。新工場では引き続き国内向けの製品を作るが、海外の量産工場へ技術移転の拠点にも位置付ける。

12年に自社工場を設けたタイに続き、中国・江蘇省に約4億円をかけ新工場を建設する。現在は貸工場で運営しているが、延べ床面積3500平方メートルの自前の工場を設け15年春の移転を目指す。中国では環境規制の強化をにらみ、現地の自動車メーカーが車の軽量化に向けたアルミ素材の採用を進めており、需要が拡大しているという。野村社長は「海外の現地生産を拡大し、国内はロイヤルティや技術指導料で稼ぐ体制をつくる」と強調する。

国内の売上高は今後も横ばいの見通しだが、海外拠点拡大でグループ全体の売上高(単純合計)は19年度に29億円程度と、13年度比で3割引き上げる。